コウノトリ

毎週月曜日更新

カタカタ通信

第１７７号

「七転び八起き」

２０２５年5月１９日

４月上旬のヒナは、５～７日ほど成長が遅れているようだったので飼育係からの補助給餌を行い、その後は順調に成長していました。食べる量も増え、親と同じくらいの量の餌をもりもり食べていました。元気よく食べていましたが、成長はゆっくりで、5月上旬では７～１０日遅れになったように見えました。親からもらう餌だけでは足りなそうだったので、飼育係からの補助給餌も続けていました。

もりもり食べてます（33日齢）

しんだふりしつつ餌待ち中

冷たい雨の日でした。いつもの半分ぐらいしか食べませんでした。次の日の動きは元気に見えましたが、餌はほとんど食べずにいたため獣医に診てもらいました。前日に雨で濡れていたので、親からいったん離して室内で温めてみようか、でも親が落ち着かなくなってしまうかも……、と悩みました。スタッフみんなで悩んだ結果、動きは元気そうだったので、親に戻すことにしました。

本来この時期は、親が体の下にヒナを入れて温める段階は過ぎています。親が羽の下に入れようとすると、ヒナは自分で出てしまいました。また親が羽を広げると、今度はおとなしく抱かれていました。その後、何度か親が立ち上がった時にも、ヒナは元気に動いているようでした。しかし、翌朝５時４５分に動いたのを最後に動きは見られませんでした。４０日齢でした。ヒナを解剖すると、胃の中に大きな植物の繊維の塊がありました。もう吐きもどすことのできない大きさでした。

残念ながらヒナはいなくなってしまいましたが、空と花と天空の里にとってはじめての育すう（子育て）は、これまでにない貴重な経験となりました。今回ここまでコウノトリをあたたかく見守ってくださったみなさんに感謝いたします。

ここまで大きく育ちました

天空の里　鴻巣市コウノトリ野生復帰センター

飼育担当：しみじい